

短大生の自由英作文の特徴

— 内容と英文の質・量との関係 —

大 西 光 興

I. はじめに

英語の4技能のうちで「書く」能力、特に自由に自分の考えを英語で表現する能力の開発が、これまでの英語教育において最も立ち後れていることは、誰も認めるところであろう。そのような状況の根底には次のような現実が横たわっている。

- (1) 平常授業の中では自由英作文を一斉に行なわせるためのまとまった時間を確保することが困難であり、夏休みなどの宿題として自由英作文の課題を出すとか、海外文通や英文日記を奨励する以外には、実際に行なわれていないようである。
- (2) 「英作文」は事実上、文法事項や文型に習熟させるための練習のひとつとしての短い和文英訳練習に過ぎない。
- (3) 多数の受験生の答案を採点処理する都合上、大学入試に自由英作文を出題することは稀である。したがって、高校での自由英作文の指導が後回しにならざるをえない。
- (4) 日本人学生に対する自由英作文の効果的な指導法も正当な評価法もともに十分確立されておらず、ゆえに自由英作文の指導を受け持つことを嫌がる教師が多い。
- (5) 日本人の特性として、積極的に自分の意見を述べるのをためらい、「控えめ」を美德とするところがある。

国際化の時代を迎え、外国人とのコミュニケーションの機会がますます増加しているが、そのための手段としての日本人学生の英語の実力は

TOEFL などの成績の国際比較を見ても明らかなように、極めて低い状態が続いている。 今後は情報受信のためだけでなく、情報発信のための英語力が一層必要とされる。 したがって、日本の世界の中でのありかたに鑑み、英語教育において一層強調すべきは発信型の英語力の育成ということになろう。

本論は発信型の英語力育成のためのひとつの試みとして、どのようにすれば学生が積極的に英語で自分の考えを書いて発表できるようになるかを、学生の自由英作文の英文を分析することによって考察し、真の英作文力を向上させる方法を探求することを目的としている。

II. 調査方法

- A. 調査対象：文教大学女子短期大学部英語英文科2年B組
34名中、期限までに自由英作文を提出した26名
- B. 調査時期：1992年4月上旬
- C. 調査方法：4月7日の在学生オリエンテーションの時に B5版の用紙を1人2枚ずつ渡し、“My Spring Vacation”という題で自由英作文をさせ、1週間後に提出させた。

III. 調査結果の分析と考察

A. 使用総語数の比較

英文そのものの質を特に問題にしなければ、使用総語数によって、内容の量が大体判断できる。 総語数が最も多いのは「Z」で470語。最小は「F」の156語で、「Z」の約3分の1に過ぎない。そもそも英語を書くこと自体が苦手な学生がほとんどであるが、B5版の用紙2枚を英文で埋めつくすとなると、大変な努力と忍耐を要する。特にどのような内容について書けばよいかわからなかった場合、その辛さは察するに余りある。他方、この春休み中に印象に残るような体験をした者は、書くべき

内容がはっきりしており、比較的楽に書くことができたであろう。以上の
 ような予測を証明するために、使用総語数と内容の関係を見てみよう。

(表1) 使用総語数の多い作品

作品	総語数	内 容
Z	470	ニュージーランド旅行
Y	444	アメリカ旅行
R	413	ニュージーランド旅行
U	411	ニュージーランド旅行
B	330	アメリカ旅行
A	313	ニュージーランド旅行

(表2) 使用総語数の少い作品

F	156	教育実習に備えて実習校へ挨拶
K	159	アルバイト
I	168	雨にたたられた伊豆旅行
V	170	勤めに出る母の代わりに家事手伝
X	174	アルバイト
M	192	スキー旅行

上の2つの表を見て比較すれば、次のようなことが推測できるのでは
 ないであろうか。

- (1) 海外旅行のような非日常的な楽しい体験をした場合、書く材料に
 事欠かないので、比較的楽に大量の英文が書ける。
- (2) アルバイトや家事手伝などのような日常的であり興味の湧かない
 事柄や、期待外れに終わった旅行などについて書く場合は、多く
 の英文が書けない。

以上の予測を補強するために、さらに、調査対象26人の作品すべてに

ついて、それぞれの内容と総語数を見てみると、旅行やスキーなど比較的楽しい体験について書いた者は15名で、その平均使用総語数は303語であった。一方、アルバイトなどあまり楽しくない体験について書いている者は11名で、その平均使用総語数は199語であった。両者を比較してみると、平均使用総語数で104語も差があり、書いた英語の量は前者が後者の約1.5倍であった。

B. 1文を構成する単語数

ただ思いつくままに英文を書かせると、短大生でも中学2年レベルの単文の短文をだらだらと羅列するだけである。いくらかでも長い英文を書こうとする場合は、ただ and, so, but を繰り返し用いるだけである。複文を用いて長い英文を書くことはかなりの努力と意欲を必要とするようである。

そこでまず、1文を構成する単語数を見てみよう。

(表3) 1文あたりの平均語数(多い作品)

作品	1文の平均語数	最長文の語数	最短文の語数
X	15.8	23	7
Y	15.3	37	7
T	14.6	25	8
W	13.3	27	5
B	13.2	42	5

(表4) 1文あたりの平均語数(少い作品)

P	8.6	20	3
M	8.7	25	2
E	8.8	17	2
K	8.8	19	3
L	8.8	21	3

全作品の1文あたりの平均語数は10.3であった。

以上の結果から、時間が与えられれば、英文科の学生であるというプライドも作用して、単文の短文だけの羅列を避けることが幾分はできるようである。

C. 複文の使用状況

内容を断片的ではなく、相手が理解しやすく、より豊かに表現するためには、文体に対する配慮が必要である。とりわけ、重文に代わって複文をどれだけ使用しているかが、文体への配慮の明確な表れと言えるであろう。そこで、使用している複文の種類と数を比較してみよう。

(表5) 複文の種類と数(多い作品)〈使用複文総数の多い順〉

作品	文総数	名詞節	形容詞節	副詞節	複文使用率
Z	52	6	5	6	32.7%
Y	29	6	3	6	51.7
B	25	3	4	6	52.0
A	34	4	2	6	35.3
T	17	3	1	7	64.7
W	21	1	1	7	42.9
D	27	3	2	4	33.3
P	24	3	3	3	37.5

(表6) 複文の種類と数(少い作品)〈使用複文総数の少い順〉

E	24	0	0	1	4.2%
K	18	0	0	1	5.6
V	15	2	1	0	20.0
X	12	0	2	1	25.0
I	18	1	0	2	17.4
F	16	2	0	2	25.0
N	26	1	1	2	15.4
S	18	0	2	2	22.2

以上の結果と、作品の内容との関係を見てみると、複文を多く用いた8名の内、6名(Z, Y, B, A, W, D)が海外旅行について書いている。他方、複文をほとんど使用していない8名の内、E, Fの2名が海外旅行について書いているのに対し、他の6名はアルバイト、実習校訪問、家事手伝、雨にたたられた伊豆旅行などあまり楽しくない体験についての記述である。要するに、海外旅行など楽しい体験について書く場合、書く材料も豊富で、読者に楽しさを分かとうとする意欲が動機となって、使用に努力を要する複文を多く使ったのであろう。

IV. おわりに

これまでの調査の結果分析をまとめると、次のようなことが言えるのではなからうか。

質・量ともに十分な自由英作文を書かせるためには、まず十分な動機付けが必要である。最も効果的な動機付けは海外旅行などのような非日常的な楽しい体験をさせることである。次にそのような楽しい体験について積極的に発表する機会をできる限り多く与え、はじめは、英語そのものの正確さよりは、量の多さを誉め讃えるようにする。こうする

ことによって、英語を書くことに対する興味と意欲をかき立てれば、誤りを犯すことを恐れる気持ちも薄れ、英語を楽しんで書くようになり、自分自身でより良い英文に改めようと努力するようになる。その努力を教師が適切なアドバイスによって、実りあるものにさせれば、次第に優れた英文が書けるようになるはずである。

1993年1月11日

参考文献

1. Celce-Murcia, Marianne and Lois McIntosh (eds.)(1979), Teaching English as a Second or Foreign Language Rowley, Mass.; Newbury House Publishers, Inc.
2. Raimes, Ann (1983), Techniques in Teaching Writing
3. 沖原勝昭 編 (1985)、「英語のライティング」
英語教育学モノグラフ・シリーズ、大修館
4. 文部省 (1989)、高等学校学習指導要領・外国語編

参考資料

調査対象全員についてのデータを以下に示す。

全作品分析表

作品	総語数	総文数	1文の語数			重文数	複文数			全文中の 複文使用率	主 な 内 容
			最多	最少	平均		名詞節	形容詞節	副詞節		
A	313	34	20	3	9.5	2	4	2	6	35.3%	ニュージーランド旅行
B	330	25	42	5	13.2	3	3	4	6	52.0	アメリカ旅行
C	245	25	17	4	9.8	2	0	2	6	32.0	スキー旅行
D	264	27	28	3	10.2	2	3	2	4	33.3	ニュージーランド旅行
E	210	24	17	2	8.8	2	0	0	1	4.2	アメリカ旅行
F	156	16	18	4	9.8	2	2	0	2	25.0	教育実習校訪問
G	271	28	28	4	9.7	3	1	0	5	21.4	アメリカ旅行
H	203	18	21	5	11.3	1	2	2	1	27.8	アルバイト
I	168	18	33	3	9.3	3	1	0	2	16.7	雨にたたられた伊豆旅行
J	237	23	28	3	10.3	3	1	3	0	17.4	河口湖旅行
K	159	18	19	3	8.8	1	0	0	1	5.6	アルバイト
L	202	23	21	3	8.8	2	6	0	1	30.4	アルバイト
M	192	22	25	2	8.7	2	1	2	3	27.3	スキー旅行
N	239	26	16	4	9.2	1	1	1	2	15.4	ニュージーランド旅行
O	304	32	15	4	9.5	1	3	4	0	21.9	アルバイト
P	207	24	20	3	8.6	3	3	3	3	37.5	アルバイト
Q	203	20	25	4	10.7	3	3	2	0	25.0	友人の人柄
R	413	39	20	2	10.6	9	1	2	5	20.5	ニュージーランド旅行
S	226	18	28	4	12.6	5	0	2	2	22.2	鎌倉旅行
T	248	17	25	8	14.6	5	3	1	7	64.7	友人の結婚
U	411	39	21	4	10.6	4	1	2	2	12.8	ニュージーランド旅行
V	170	15	16	4	11.3	2	2	1	0	20.0	家事手伝い
W	280	21	27	5	13.3	5	1	1	7	42.9	アメリカ旅行
X	174	12	23	7	15.8	6	0	2	1	25.0	アルバイト
Y	444	29	37	7	15.3	12	6	3	6	51.7	アメリカ旅行
Z	470	52	25	3	9.0	9	6	5	6	32.7	ニュージーランド旅行
平均	257	25	10.3			3.6	6.9			27.6%	